

これまでの各部会の取組み状況について

山・川・海部会では、平成 25 年度の活動計画（スケジュール）に基づき、以下のように取組みを実施しています。取組み内容についてはニューズレター形式で整理し、順次情報発信を行っていきます。

山部会での取組み

- 第 10 回 WG（H25. 6. 29 開催）・・・NL Vol. 1
- 第 11 回 WG（H25. 7. 20 開催）・・・NL Vol. 2
- 第 12 回 WG（H25. 8. 17 開催）・・・NL 作成中

川部会での取組み

- 第 9 回 WG（H25. 5. 17 開催）・・・NL Vol. 1
- 第 10 回 WG（H25. 6. 13 開催）・・・NL Vol. 2
- 第 11 回 WG（H25. 7. 12 開催）・・・NL Vol. 3

海部会での取組み

- 第 8 回 WG（H25. 5. 20 開催）・・・NL Vol. 1
- 第 9 回 WG（H25. 6. 22 開催）・・・NL Vol. 2
- 第 10 回 WG（H25. 7. 20 開催）・・・NL Vol. 3
- 第 11 回 WG（H25. 8. 5 開催）・・・NL Vol. 4

矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol. 1



発行日：平成 25 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回山部会WGを開催しました！

6月29日（土曜日）に第9回山部会WGが開催され、H25年度のWGがスタートしました。

WGでは、今年度の活動計画として、今年度実施する4つの活動の内容と進め方について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）9:00～14:00
場所：根羽村老人福祉センター
参加者：21名（事務局含む）



◆主な会議内容

今年度以降の山部会運営方針 ～山部会でとりくむ4つのこと～



1. 山村再生担い手づくり事例集について

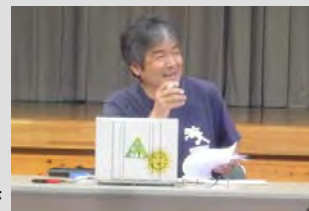
山村再生担い手づくり事例集の作成は、矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的としています。



今回は、調査する活動団体（21団体）と根羽村・恵那市・豊田市・岡崎市それぞれの担当者を決定しました。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングは、流域圏全体で山村再生のアイデアについて話し合うことを目的にしています。



まずは恵南地域の山村で7月17日に開催予定の「いっぺん寄ってみよまいか～結の炭家でアイターンゆんたく」をきっかけに1ターン者同士の交流を通じて進めていきます。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森の将来の姿と実現手段について提示することを目的としています。



ガイドラインの作成にあたり流域圏の森を構成する3県の関係課へ、座長と事務局でガイドラインの作成趣旨について説明に行くこととなりました。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業体・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的としています。ガイドラインは3カ年かけて策定することとし、まずはターゲットを明確にするためのアイデア出しについて、「ブレインストーミング方式」で実施することとなりました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- 団体そのものよりも団体が取り組んでいる活動に着目することがよい。(丹羽)
- ヒアリング時には、団体が「どんな仲間を求めているのか」が分かるとよい。(今村)
- 団体の持つ悩みや課題に対し流域圏懇談会の参加者がどのように関わられるのかも重要。(今村)
 - ▶ 今回出された意見を踏まえ、7月に開催予定の次回WGで企画案を示す。(洲崎)



より具体的に話し合う「事例集ワーキング」を同日午後を開催しました！

- 取材のとりまとめを行う団体が決まりました。
- 取材先団体にあわせ地域毎に担当者を決めました。(根羽村 南木氏、恵那市 丹羽氏、豊田市 洲崎氏、岡崎市 沖氏)
- 取材先団体は、根羽村 3 団体、恵那市 3 団体、豊田市 12 団体、岡崎市 3 団体の合計 21 団体としました。
- 取材先団体の選定は「なぜその団体なのか？」について情報共有するため推薦の言葉を考えることとしました。

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ミーティングは、それぞれの森林組合が抱える悩みを全員で話し合うことを目的として行い、搬出時の課題や悩みを雑談形式でやることを考えている、人が集まるかが心配。(今村)
 - ▶ 作業員が出席するための理由付けが重要。(松井)
- 森林組合そのものは、人の問題というより森の問題に関係が深いので、ミーティングについては森林組合にこだわる必要はないのではないかと考えている。(蔵治)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ガイドラインの検討体制として、関連する自治体の担当課に協力を要請したい。(蔵治)
 - ▶ 長野県森林政策課と林野庁に対しては、参加の呼びかけ・働きかけが可能。(今村)
- 県の担当課へ作成趣旨の説明に行くため、8月又は9月くらいから議論開始予定。(蔵治)
- マッピングの作成については、愛知県所有の森林GISのデータが使えると考えられる。(原田)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ガイドラインは3カ年かけて策定することを予定。参加者の思いを含めて心のあぶり出しを行うことを目的に、「ブレインストーミング方式」でアイデア出しを行う。(今村)
- ガイドラインはストーリーを重視した読み物とすべき。(丹羽)
- 流域圏懇談会のアピールを目的とした流域圏製品を商品化していくことも面白い。(城田)



ふりかえり



会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったことと思うこと

事例集づくりに向けて、調査対象も出てきて、次回までのみんなの結果が楽しみ/流域でつながる情報が得られました

よくなかったと思うこと

山の百姓が、ほとんどいない場で進められている/課題が煮つまるにつれ、違和感が増している

今後取り組んでいきたい活動など

懇談会ウェブサイトを抜本的に改善したい/事例集の第1集を作り上げる事/山村再生担い手づくり事例集作成/流域材利用の方向性

今後のスケジュール (予定)



次回のWGを7月20日(土)9時から根羽村老人福祉センターにて開催します。

◆情報提供



- いっぺん寄ってみよまいか～結の炭家でアイターンゆんたく～：7月17日(水)18時～宿泊OK
- 森女の森づくり～林業女子のスズメ in 美濃市～：7月28日(日)9時30分～16時
- 岡崎のきこり塾 講演会(ぬかた会館)：10月6日(日)13～17時





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 10 回山部会WGを開催しました！

7月20日（土曜日）に第10回山部会WGが開催されました。
今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 7 月 20 日（土）9:00～12:00

場所：根羽村老人福祉センター

参加者：12 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的とした山村再生担い手づくり事例集は、山村の担い手のいる現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査からはじめることとなりました。

調査の概要は以下の通りです。

- ・調査先団体：根羽村、恵那市、岡崎市、豊田市の山村で活動する団体（具体的な団体名は裏面参照）
- ・調査者の決定：調査参加希望者を募集し、山部会で調整し決定します。
- ・調査の方法：質問の方法・聞き方などは、調査する人の自由ですが、質問の内容は、マニュアル（作成中）に記載のある項目とします。また、1団体あたり2～3時間かけて調査をし、2人位で実施することを想定します。



2. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業者・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的とし、3カ年かけて策定する予定です。

1年目の今回は、「木づくりガイドラインははじめの一歩」として、参加者の方々が、「森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

山村再生担い手づくり事例集について

●調査マニュアルについて

- 活動範囲が広域な団体もある。地図などを差し入れて紹介すればよいか。教えて頂きたい。(原田)
 - ▶ 活動範囲の記載の考え方は、活動拠点と活動範囲の両方を記載することがよい。(洲崎)
- 調査の行い方は取材に行く人のやり方に任せることでよいか。(今村)
 - ▶ よい。2人位で伺い、1団体2~3時間かけてやる。一日で多くても3団体程度の調査をこなすことを考えている。(洲崎)
- 調査先のインタビュー相手によって内容が変わるのは適切でないので、聞き取り相手の選定は、この点を意識して行うことがよい。(蔵治)

●聞き取り相手について

根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市それぞれの活動団体の概要について、情報共有を行いました。そのうえで、実際の聞き取り相手について検討しました。

現時点での聞き取り先の団体は以下の通りです。

根羽村：根羽村森林組合、根羽杉っこ餅、根羽村猟友会

恵那市：恵南森林組合、NPO 法人東濃・森林づくりの会串原支部、NPO 法人奥矢作森林塾、NPO 法人福寿の里自然倶楽部

豊田市：矢作川水系森林ボランティア協議会、とよた森林学校、とよた都市農山村交流ネットワーク、豊森なりわい塾、株式会社 M-easy、旭木の駅プロジェクト、千年持続学校、おむすび通貨、green maman、農業法人みどりの里

岡崎市：NPO 法人中部猟踊会、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会(山留舞会-やるまいかい)、じさんじょの会



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。主な意見は下記です。

- ▶ 幼少の頃から木工が好きで、人工林の間伐を通じて森林にはまっていた。(原田)
- ▶ 森が身近な地域で育った。積木がぶつかり合うときに出る音等、木のもつ感覚がよい。(城田)
- ▶ 子供にとっては、森の手入れに使う道具などはスリルがあって面白い。(斉藤)
- ▶ 小学生の頃、工作で木工玩具を作り、道具の使い方を覚え、その後遊びが本格化した。(石原)
- ▶ 幼少の頃、家族で行く山登りが好きだった。木の匂いは安心感を与えるので好き。(長谷川)
- ▶ キャンプ時の悪天候に木の下で雨宿りをした際に、安心感を覚えたことが印象的。(森)
- ▶ 鎌倉の山と海で育つ。山と海には生きていく知恵が沢山あると感じている。(黒田)
- ▶ 生き物と木が好き。木のよさに魅せられ、少し前に自宅を間伐材で張り替えた。(沖)
- ▶ 北海道育ち。森には近寄ってはいけないルールがあったが隠れて遊ぶのが楽しかった。(南木)
- ▶ 東京都内でも奥多摩や飯能の山に親しみながら過ごした。小学生の時に作った木工作品を先生に褒められたことが印象的。都会の人に山に来てもらってイベントなどをするとよい。(蔵治)
- ▶ 学生時代、狭山丘陵で懐かしい風景に出会う。木に抱きつくほど感動し、研究者を志す。(洲崎)
- ▶ 子供の頃、犬小屋を木で制作した。登山が好きで、山頂から見る風景に感動している。(今村)

- 次回は「森や木がこんなふうになればいいのに」と感じることや、「そのために取り組む内容」について自分なりに考えておいて頂きたい。(今村)
- 映像、写真、子供の頃に自分で作った作品などがあると議論が盛り上がる。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回のWGを8月17日(土)に豊田市役所足助支所にて開催します。

◆情報提供

- 2013年11月2日(土)・3日(日/文化の日)：第6回いい川・いい川づくりワークショップ開催



矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.3



発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回山の地域部会・第11回山部会WGを開催しました！

8月17日（土曜日）に第4回山の地域部会・第11回山部会WGが開催されました。

今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 8 月 17 日（土）9:00～13:00

場所：豊田市役所 足助支所 2階 第2会議室

参加者：15名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 第4回山の地域部会にて、役員の変更を行いました。



第4回山の地域部会にて、矢作川流域圏懇談会規約に基づき、役員の変更を行いました。

座長に東京大学大学院の蔵治光一郎准教授、副座長に岐阜県立森林文化アカデミーの丹羽健司非常勤講師が改選されました。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向け、山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査を行います。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10月の取材調査開始に向けて、着々と準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は「木づかいガイドラインはじめの一歩」として、参加者の方々が「森や木を前にして、これではいけないのでは、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と思う点について意見を出し合いました。

身近にある木の暮らしをイメージしながら、流域の木材利用や木工製品の活用方法について、多くの意見が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材先への協力依頼文、取材者募集のメール文面の案について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者募集の文面には、取材先の選定は「自発的で優れた活動団体」を対象としていることを付け加える。(蔵治)
- 取材の申し込み後、参加者の希望に沿うように取材先とのマッチングを行うが、必ずしも希望通りにならないことを記載しておく。(丹羽)

2013年度スケジュール案

今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・8月17日(日)	山部会WGでの作業
・～8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認
・～9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認
・9月7日(土)～9月27日(金)	取材者の募集
・10月1日(火)～10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング、 取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)～12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出
・1月6日(月)～2月28日(金)	2013年度山村再生担い手づくり事例集作成、交通費精算



参加者の募集について

- 山川海の連携が大切。山部会のメンバー以外にも川と海からの参加があるとよい。(丹羽)
 - ▶メールによる呼びかけに加え、川部会、海部会が開催する会に説明へいき案内することがよい。(蔵治)
 - ▶8月26日の川部会と9月9日の海部会に出向き、周知してくる。(丹羽)
 - ▶8月21日の市民会議に出向き、周知してくる。(洲崎)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じることにについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインについて】

- ▶職業柄、木づかいガイドラインの作成は形式から考えてしまうので、今回のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられるためよい。(原田)
- ▶矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がる、価値が上がるということにつながる。(相川)
- ▶ガイドラインはみんながわかるものがないとだめ。書店でマイサイズが入ったキットを売るなども面白い。(城田)
- ▶立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく。歩いて楽しい林にできればよい。(洲崎)
- ▶木づかいガイドラインと森づくりガイドラインはリンクしていないといけない。(黒田)
- ▶工務店とのブレーストーミングを通じて意見交換などができるとおもしろい。(蔵治)

【木材利用の推進について】

- ▶旭の交流館から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木材でつくられた小学校などを通じてPRしたいが、森林組合だけで行うのは困難。(松井)
- ▶人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時期に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。(相川)
- ▶総無垢のベビーベッドがある。世の中にはファーストウッドという考えもある。(蔵治)
- ▶ファーストウッドで地域振興している上飯田の例がある。(原田)
- ▶机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。(丹羽)
- ▶北海道のエコビレッジでは、自分達で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自前でできる。(城田)
- ▶普通の人々が作れるものを品目に入れるべきだし、そのようなものの中には雇用を生み出すのはたくさんある。(城田)
- ▶木の駅プロジェクトに関連し、ちょっとした木工が可能となる機器をおいておければよい。(南木)
- ▶日曜大工は道具をそろえればその気になればできる。(丹羽)
- ▶リフォームへの補助金(城田)
- ▶豊田森林組合では、工具そのものを貸し出すことはしないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。(松井)

今後のスケジュール(予定)

次回のWGを9月13日(土)に元気村にて開催します。





発行日：平成 25 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆H25年度の川部会WGがスタートしました！

矢作川流域圏懇談会の新たな3年間のサイクルの始まりです。H25年度最初の川部会WGの活動は、市民提案による開催となり、5月17日に第9回の活動が行なわれました。市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 5 月 17 日（金）9:00～11:30
場所：安永川排水樋門、
渡合地区災害復旧事業現場付近
参加者：19名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 安永川改修事業、及び安永川排水樋門について



安永川改修事業、及び安永川排水樋門について、豊田市建設部河川課の須藤氏より、説明を伺いました。

- 豊田市街地は標高が低く、水がたまりやすい地形で、S.37年やH.12年の豪雨で浸水被害を受けたことが事業の契機となった。
- トンネル部の流下能力は、現況 $10\text{m}^3/\text{s}$ (S.10-16に整備) から $90\text{m}^3/\text{s}$ に改修する計画で進めている。
- トンネルより上流区間や下流区間は、自然環境に配慮した川を整備する予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・樋門下流の整備した魚道に、魚は上りそうか。(碓)
- ・2kmの暗いトンネルを通過して豊田市街地までいけるか。(阿部)
 - ▶ この魚道やトンネルを通して、魚が豊田市街地まで遡上して欲しいという思いで整備している。実際に魚が遡上してくれるかは、まだわからない。(栗木)
- ・取り付け護岸のコンクリートが目立ちすぎて、上下流の護岸と同様に覆土できないか。(阿部)
- ・魚道内に碎石を積んで、スロープ状とすれば、アユだけでなくいろんな生き物が上れる可能性があるのでは。(光岡)
- ・上流に魚を上らせるのであれば、トンネル内も同様に、河床を工夫する必要がある。(阿部)
- ・安永川合流部下流には、明治用水頭首工下流においては貴重な良い瀬がある。本流への影響は考えられているか。(阿部)
 - ▶ まだ通水していない状態なので、通水後の状況をモニタリングしながら、対応を考えていきたい。事業が完成した後であっても、手をつけられないとは思っておらず、工夫してより良いものにしていきたい。(栗木)
- ・整備する時には、漁協だけでなく、様々な立場の人に意見を聞けるとよい。(碓)
- ・取付け水路は水深があり、樋門側からトンネル内部にも侵入できてしまうため、子どもの安全対策が課題である。(小林)



安永川排水樋門での意見交換の様子



安永川合流点下流の瀬の様子

2. 渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について



渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について、国土交通省豊橋河川事務所岡崎出張所の小林所長より、説明を伺いました。

- 左岸側への水あたりが弱まるよう、低水路右岸側の州を掘削して、水路をつくった。
- 今は直線の水路であるが、残った州や水路を利用して、ワンド等の実験場とすることも可能と考えている。
- 左岸側は、災害復旧事業により護岸改修したもので、整備する区間は、上下流にもう少し延長される予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

（・意見 ▶ 回答）

- ・整備された護岸の規模が相当大きく見えるが、本当に必要なのか？安全率を高くみ過ぎているのでは？（内田）
 - ▶ 今回の護岸整備箇所は、元々急傾斜で、背後地は石混じりの砂質のため、工事がかなり大変な場所であった。（小林）
 - ▶ 上段部分は、マットとシートを貼っているだけで、今後、芝張り等を行う予定である。（小林）
- ・下段のテトラポットと中段のコンクリートブロックは問題である。ただウナギなどは生息できるかもしれない。
- ・提供資料の航空写真の経年変化を見ると、昔は、濡筋の片寄りは見られないが、ここ10年で岩が顕れ、濡筋は左岸側に变化してきているように見える。河床が低下した影響ではないか。（内田）
- ・ワンドなどの実験場とするのは、おもしろいと思う。（高橋伸）
- ・この付近は、河床低下が大きい場所でそれでも治水上問題となっている場所である。右岸側の樹林地も含めて、広い範囲で考える必要があるのではないか。（内田）



渡合地区対岸での意見交換の様子



渡合地区の災害復旧の様子

第10回川部会WGのお知らせ



次回は、家下川の取り組み状況を現地視察した後、場所を移動して、川部会WGの今年度の活動計画などについて、意見交換を行います。当日は、柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側）に15時集合です。第1部のみ、第2部のみ参加も可能ですので、お時間の都合のつく方は、是非参加ください。

日時：平成25年6月13日（木）15時～20時

○ 第1部：家下川現地視察

時間：15時～17時

場所：家下川（集合場所：柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側））

○ 第2部：意見交換（川部会WGの今年度の活動計画などについて）

時間：18時～20時

場所：豊田市職員会館2F 第1会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 10 回川部会 WG を開催しました！

6 月 13 日に矢作川流域圏懇談会第 10 回川部会WGは、家下川流域の現地調査と、市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 6 月 13 日(金) 15:00～20:40

調査場所：家下川流域

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：19 名（事務局含む）

◆WGで議論した主な内容

【家下川の課題と解決策について】

- 家下川一承水溝一長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとした。
- 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を確認できるとよい。
- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、その状況を確認した。

【川部会の活動の方向性について】

- 川部会WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。
- 川部会WGの活動を積極的にPRし、エビデンスになるようにしてほしい。
- 川部会WGでは、国・県・市で実施する事業があれば、議論し提案できる場としたい。3モデルの対象エリアにとらわれず、提案があればレスポンスできる体制としたい。



長池での意見交換の様子



長池一承水溝の段差



承水溝前での意見交換の様子

第 1 部：家下川現地調査



(1) 柳川瀬公園付近（長池一承水溝一家下川）

矢作川水族館の阿部氏より、長池の状況について説明を伺いました。

- 長池に水が供給されると、水位は例年より高くなり、水質はかなり改善される。
- 長池には流れがほとんどないため、魚の産卵地にはなっていない。
- 長池一承水溝一家下川の平常時の水位が異なることが、問題である。



承水溝一矢作川の合流箇所

【意見交換】

（・意見 ▶ 回答）

- ・家下川一承水溝一長池の理想形を考えておく必要がある。（光岡）
- ・用水系統の末端に近いので、運用で水源を確保できる可能性はある。家下川などから水源確保可能か、物理的な高さについて、確認することができればよい。水利権について、今後整理が必要である。（鷺見）
- ・水源となる水は余分があれば流してほしく、常時必要なものではない。（阿部）
- ・長池にどの程度の流量があるとよいか、わかるとよい（鷺見）
- ・承水溝のポンプ場付近は、公園の砂が流れ込み陸地化しそうな状況である。ポンプ改修と合わせて、浚渫できる可能性がある。（阿部）
- ・承水溝と家下川は、小トンネルでつながり流れがある。以前に、承水溝の水位を上げたときは、トンネル手前に角落としを入れて堰上げした。（阿部）



家下川合流点段差改善箇所



家下川合流点の導流堤

(2) 家下川合流点の段差改善箇所

国土交通省豊橋河川事務所の新高副所長より、家下川合流点の段差改善について説明を伺いました。

- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。
- 昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護（袋詰め玉石など）を検討している。

(3) 県・市管理境界付近

(・意見 ▶ 回答)

- ・明治用水の耐震改修に合わせて、明治用水下の暗渠部の断面を大きく改修する予定であり、用水管理者と調整を始めている状況である。
- ・明治用水下のトンネルは、歴史遺産として保存してほしいという話がある。



県・市管理境界上流の様子

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・川部会の3ヶ年、あるいは当面の1年についていかがか。(鷺見)
- ・川部会としては、何をアクションと捉えて活動するか。(光岡)
 - ▶ WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。(鷺見)
- ・白浜工区の事業のように、国、県、市の事業に対して提案していくことが成果とできるとよい。(内田)
 - ▶ 懇談会は元々、整備計画で位置づけて開催しているので、本来の趣旨に則したものと言える。(新高)
 - ▶ それを積極的にPRし、エビデンスになるよう明示してほしい。国、県、市で実施する事業としてあれば提示いただき、議論し提案する場としたい。(鷺見)
- ・安永川や渡合地区の災害復旧事業が、懇談会を通さずに行われたことが、今後の課題である。(光岡)
- ・モデルというフレームワークをどうするか。本来の家下川モデルや本川モデルからはずれるエリアでも同様に、議論の対象にできないか。(鷺見)
 - ▶ 現場としては、工事のスケジュールもあるので、早急に皆さんとお話したいと思っている事案がある。(小林)
 - ▶ 事務所で今年度やろうとしている事業については、WGの中でご説明したい。(新高)
 - ▶ 家下川の場合、水位を上げようとした場合に、どの程度の水位がよいか、検討できればよい。(阿部)
 - ▶ 安城市では、多自然川づくりの事業を毎年少しずつ進めている。ここで議論することが問題なければ、提示して議論いただきたい事案がある。(早川)
- ・WGは、3モデルの対象エリアにとらわれず、自由度のある中でやっていきたい。ただし、関わり方は、これまで検討してきたモデルのように取り組むことはできないが、提案があればレスポンスできる体制としたい。(鷺見)
- ・生き物に配慮するといっても、決定的な工法がないのが現状である。個々の対応も必要だが、基本を考えておく必要もある。(本守)
- ・まず、今できる工法がどういうものがあるか考える必要がある。(鷺見)

今後の川部会 WG の予定



■第11回(本川モデル)

日時：平成25年7月12日(金) 13:00~19:30

○本川現地視察：瀬・淵、合流箇所

○意見交換

場所：豊田市職員会館2階 第1会議室

■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00

場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 11 回川部会 WG を開催しました！

7 月 12 日に開催された第 11 回川部会 WG では、瀬淵やワンド、砂州、支川合流点の現状を確認し、情報共有を行いました。また、「瀬・淵について」「支川合流点について」「次回以降の活動について」「今年度発注工事について」などの各課題と解決策について話し合いました。

日時：平成 25 年 7 月 12 日（金）
13:00～18:30

調査場所：矢作川本川（瀬・淵、合流箇所）

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：21 名（事務局含む）

◆WG で議論した主な内容

- 瀬淵やワンド、砂州など、横断的な変化が形成されるには、低水路の川幅の広がりが必要であり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認した。
- WG メンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととした。
- 期限（8/28）までに役員改選を行い、第 3 回全体会議で事後確認を行なう予定とする。
- 国交省の今年度発注工事のうち、樹木伐採と高水敷の掘削方法について、個別に WG メンバーから意見をいただくこととした。

第 1 部：矢作川本川現地調査



【意見交換】

（・意見 > 回答）

（1）豊田大橋周辺の瀬淵、ワンド、砂州

- ・州や瀬の前衛線が見える。このあたりの区間は州が交互に張り出している状態で、大きな洪水があると砂州が動く。（鷺見）
- ・1999～2000年の洪水で瀬がはっきりした形になった。それまでは明確な瀬ではなく、戦後は河床が砂だったため、アユが釣れなかったと聞いている。（内田）
- ・ピアにあたる部分に立派な瀬があったと聞いている。（本守）
- ・ドビケラなど底生生物が、河床を固めている要因の一つである。（内田）
- ・豊田大橋上流のワンドは、1999年の出水でできた。（内田）
- ・川幅が広がると州がしやすい。この付近は、対岸が広がることを許容しているので、固定的な砂州ができていく。（鷺見）

（3）高橋上流の瀬淵

- ・左岸側に昔の大きな石の水制があり、魚の生息場所として重要である。（内田）
- ・流れてくる土砂量と流量が同じなら、川幅は広いほうがよく、この場所では、川幅が広がると瀬ふちのメリハリができると思う。（鷺見）
- ・右岸側の整備当初は人工的印象だったが、植生が生えていい状態になった。（内田）

（4）市木川の支川合流部

- ・市木川の下流部、市街地の中にある落差工について、魚道を計画している。昨年検討を実施し、今年工事予定である。（高橋好）

（5）加茂川の支川合流部

- ・加茂川合流部の段差は改善しやすく、WG メンバーでの活動も可能である。（内田）
- ・加茂川上流部まで落差工に魚道が設置されており、この段差を解消すれば連続性ができる。（高橋好）

（6）大見川の支川合流部

- ・下流域が東海豪雨で浸水被害を受けた。川幅が約 9.5m（管理道を含めると 28m）になり、多自然川づくりに則って整備する予定。地元とワークショップを行いながら、検討している。（北村）
- ・上流を改修すると、合流部のゲートがボトルネックにならないか。（鷺見）



豊田大橋下流の瀬の状況



高橋上流の瀬を確認する様子



市木川での意見交換の様子



加茂川水門下の段差の状況



大見川合流部の段差の状況

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

(1) 瀬・淵について

- 今日現地調査した時に、豊田大橋下流には釣り人がいた。瀬にも、良い悪いがあると思うが、良い瀬とはどういうものか。(本守)
- 浅すぎるとアユの安定した縄張りができにくいと聞いている。(内田)
 - ▶ 河川整備基本方針では、魚の移動や産卵場に必要な最低水深が設定されている。(西原)
 - ▶ 渡合地区の場合、漁協から水深 80~90cm 程度必要と聞いた。(小林)
- 瀬だけでなく、それに付随する淵やワンドがあり、いろんな種類の魚がすめることが大事と思う。懇談会として、どういう状況を目指すか。そのために、低水路の幅がどの程度であるとよいか。(内田)
 - ▶ 低水路幅を広げると、横断的な高低差が出やすいと考えられる。河床が動くのは毎年ではなく、洪水により河床が動く可能性を念頭に検討を進める必要がある。また、河畔林のような場所もセットで考える必要がある。(鷺見)

(2) 支川合流点について

- 市木川本川について、地元から魚道設置の要望があったことから始まり、昨年度に魚道の実施設計、本年度に工事予定である。(高橋好)
- 今日のWGで魚の専門家がいるとよかった。特徴的な魚がいるかどうか基本的な情報があるとよい。(内田)
- 市木川周辺はいい環境ではあったが、現状では段差改善の提案はなかなか難しいと考える。(鷺見)
- 大見川の落差は、カワムツなど遊泳力のある魚には、ほとんど障壁になっていないと思う。(内田)
- 大見川の整備で樹木等は植える予定か。川幅があるので、いろいろ考えられるのではないか。(鷺見)
 - ▶ 基本的に、魚が棲めるようにとは考えている。(北村)
 - ▶ 水質は悪くないと聞いている。うまくつくれば、子どもが遊べる場所になるのではないか。
- 加茂川下流も、竹を伐採すればちょうどいい空間がある。(鷺見)
 - ▶ 加茂川本川の水質はよく、アドプト制度で竹を伐採しているところである。(小林)
- 市木川の段差解消は、すぐには難しそうであり、大見川は豊田市から紹介いただいた計画について考えたい。加茂川の合流点の段差改善には可能性があり、今後検討していくこととしたい。(内田)

(3) 改選の進め方について

- 期限(8/28)までに役員改選を行い、第3回全体会議で事後確認を行なう予定としたい。鷺見先生は、物理的に時間が確保できないなどの理由から責任ある立場からは降りたいという申し出があった。(西原)
- 学識者メンバーとして残りながら、瀬淵や家下川の課題に関わっていききたい。(鷺見)

(4) 今年度発注工事について

- 今年度予定している樹木伐採と高水敷の掘削の仕方について、ご意見をいただきたい。樹木管理の手引きに従って実施していきたいと考えている。また、樹木抜開体験会の開催や近隣の学区との維持管理の協働を考えたい。(小林)
- 第10回WGで説明した渡合地区対岸のワンドの実験ヤードとしての利用や安永川樋門周りのブロックの覆土についても考えていきたい。(小林)

今後の川部会 WG の予定



■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00
場所：豊田市職員会館
活動内容案：矢作川・家下川・承水溝・長池の高さ(水位)関係の把握、望ましい姿の検討

■第13回(地先モデル)

日時：平成25年9月20日(金)
場所：未定
活動内容案：専門家リスト、活動団体ヒアリング等について



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成 25 年 5 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 8 回海部会 WG を開催しました！

5 月 20 日に第 8 回海部会 WG が開催され、H25 年度の WG がスタートしました。

WG では、今年度の活動計画として、今年度メンバーで実施する活動の内容について話し合いました。



日時：平成 25 年 5 月 20 日（月）15:00～17:00
場所：西尾市役所 5 階 53A・B・C 会議室
参加者：20 名（事務局含む）

◆主な会議内容

自己紹介を行い、メンバー同士の活動情報を共有しました



メンバーが行っている活動として、ヨットや前島を訪れるイベントを通して、子どもたちに海の良さを伝える活動や、水路のヘドロを再利用する活動などを行っているという情報が共有できました。



今年度の海部会 WG の活動計画について話し合いました



今年度の海部会の活動計画について、以下の活動方針、活動内容について話し合いました。詳細な活動内容や日程については、今後の話し合うことになりましたが、海部会の目的をメンバー全員で共有でき、有意義な WG となりました。

【今年度海部会の海部会 WG の活動方針について】

- ごみ・流木調査の活動を行うとともに、土砂や海、干潟の現状についての調査を行う。

【今年度の活動内容について】

- ① 昨年度から、企画を進めてきたごみ・流木調査は、とりあえずプレ調査を行ってみる。
- ② 山部会との連携も考慮しながら、矢作ダムなどの土砂の現状を調査する。
- ③ 人工干潟の事例として、西浦の人工干潟の状況を調査する。
- ④ 海の現状を知るために、船により海に出て、水質の状況を調査する。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●今年度の海部会 WG の運営方針について

- 海にとっては、砂の問題、水質の問題が、上流からの影響を一番受け、問題である。できること（ゴミ問題）をやっていくというだけでは、本質を外しているのではないか。（鈴木（輝））
 - ▶ 我々でできることは限られているので、それが干潟調査やゴミ調査であるのは仕方ないことだと思う。しかし、本当に重要なことを忘れてはいけないので、こういう勉強会のような場も必要だ。（青木）
 - ▶ 海そのものの勉強会はやらなければいけない。海でまだ分かっていないこと、情報公開されていないことがある。（井上）

●今年度の活動内容について

① 流木・ゴミ調査のプレ調査について

- 流木・ゴミ調査は、実施するというので、昨年度から動いている。（青木）
 - ▶ やるならやるということで、一度やってみた方が良い。（高橋）
- 愛知県も同じような調査をされているが、調査票のようなものは統一できるか。（高橋）
 - ▶ 県の方では、調査票はまだ検討中の段階である。（石上）
 - ▶ 県の調査様式を参考に頂いているが、今後調整が必要だ。（西原）
- 海部会の調査は、流木・ゴミの出所を明らかにする、ということが目的であった。（高橋）
- 上流に向けて、発信できるデータをとりたい、ということだった。（青木）



② 矢作ダム等の土砂見学について

- 以前、山の方に見学に行ってはどうか、という話が出た。山の土砂を見に行くという活動は1回入れたい。（青木）
 - ▶ いいと思う。山部会も一緒に行ってはどうか。（松井）

③ 西浦人工干潟の見学について

- いま伊勢湾再生の検討部会などでも指摘されているのは、水質悪化の原因が、陸から流れ込む窒素、リンなどではなく、干潟や浅場のような浄化機能が高い生物が棲んでいる場所が失われたということだ。（鈴木（輝））
 - ▶ 人工干潟で一番良くできているのが西浦の干潟である。手前に水路があり、人工干潟をつくるなら、そうしたものがいいと思う。一度見に行けばいいと思う。（高橋）

④ 貧酸素水塊の見学について

- 冬場の海はきれいだが、夏場の海はどろどろしている。なぜか。（大矢）
 - ▶ きれい、汚いは、プランクトンがいるかどうかだ。冬の東三河と西三河では、吉田の川を境に全然透明度が違う。（石川）
- 船に乗って実際にこの目で見てみると、全然違う。（高橋）
 - ▶ 国土交通省の三河港湾事務所さんに船を出してもらい、観測機器を借りて、実際にどの程度酸素がないかを見てみればいい。できれば、山の人と一緒に。（井上）



● その他

- 以前出てもらっていた、国土交通省の三河港湾事務所や西尾市の人にも WG に出てもらってはどうか。（井上）

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったと思うこと

本音が言えたこと/自由な話し合いができた/海に係る関連な議論で、浄化についてよくわかった/見学会も決まり、動き出した感じがする

よくなかったと思うこと

時間不足/港湾局や西尾市の出席がなかった

今後取り組んでいきたい活動など

本日提案した行事の実行/現状を知る視察/漁業者の人から直接話を聞く機会をつくること/それぞれの働きを認識する

今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第9回 WG を 6月22日（土）に開催します

今年度の活動方針（詳細）やゴミ・流木調査のプレ調査について話し合いを行う予定です。





発行日：平成 25 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 9 回海部会 WG を開催しました！

6 月 22 日に第 9 回海部会 WG が開催されました。
WG では、海部会 WG の今年度の年間活動計画と、7 月に開催される第 10 回海部会 WG 「ごみ・流木調査プレ調査」の実施方針について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 22 日（土）13:00～15:00
場所：西尾市文化会館 2 階 202 号会議室
参加者：14 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1：海部会 WG の年間活動計画について話し合いました



海部会 WG の今年度の年間活動計画について、内容、スケジュールなどを話し合いました。活動計画をメンバーで共有でき、干潟観察会や水質観察会については、具体的な提案も出ました。

今年度の活動内容として、以下の計画が共有されました。

【海部会 WG の年間活動計画】

- 7 月 ごみ・流木調査 プレ調査
- 8 月 干潟観察会
- 9 月 三河湾水質観察会
ごみ・流木調査 本調査
- 10 月 土砂見学会（矢作ダム）
- 11 月 土砂見学会（下流河川等）
- 12 月 とりまとめ



2：次回 WG ごみ・流木調査プレ調査の実施方針について話し合いました



7 月に予定している第 10 回海部会 WG 「ごみ・流木調査プレ調査」の実施方針について話し合いました。プレ調査として、佐久島の白浜海岸を調査場所に活動を行うことが決まりました。

【主な内容】

- この手法が海岸だけでなく、河川でも有効かどうか、検討した方が良い。
- 調査だけでなく、ごみを拾って、汗を流してはどうか。漁民の気持ち、海の住民の気持ちが分かる。
- 海部会だけでなく、他の部会にも声をかけた方がいいと思う。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

1：海部会 WG の年間活動計画について

① 年間活動計画全体について

- 月 1 回活動があり、9 月は出水時にごみ・流木調査もあって 2 回活動があるので、けっこう忙しいスケジュールとなるが、どうか。（青木）
 - ▶ 矢作川流域圏において、矢作ダム、干潟、貧酸素水塊は、本質的な問題ではあるので、活動内容としては、全て重要なものだと思う。（石田）



② 干潟観察会（8 月）について

- 8 月は潮が一番引く時期でも 30cm である。8 月 5、6、7 日が大潮、20、21 日も潮が引くのでそのあたりで見学会を設定してはどうか。（石田）
- 見学会は何を目的にするのかははっきりさせた方がよい。水生生物の見学なのか、砂の良し悪しなのか。（石川）
 - ▶ 造成時の目的と、その成果が出ている所、出ていない所の違いを知りたい。成功点と課題が分かるとよい。（井上）
- 人工干潟と天然干潟を比べて見学してはどうか。（石田）
 - ▶ 天然干潟は、トンボロでできた東幡豆町のトンボロ干潟がある。愛知県に 1 つしかない天然干潟である。（石川）
- 水産試験場の専門部署に解説をお願いしてもらってはどうか。（石田）

③ 三河湾水質観察会（9 月）について

- 呼びかけは、懇談会全体に行うのか。そうすると、港湾事務所の船の定員 20 人を超える可能性がある。（石田）
 - ▶ 8 月はイベントが多いので、調整が必要である。船の乗員数はだいたい 20 人くらいである。（澤田）
- 山のメンバーに対して説明できるくらい勉強してから行った方がいい。（石川）
 - ▶ ずっとその辺で調査しているので、説明できることはある。（青木）
- 貧酸素水塊は、9 月に台風が来るとなくなってしまうので、あまり遅くない時期の方がいいと思う。（石田）

2：次回 WG ごみ・流木調査プレ調査の実施方針について

- 海で実施した 10m 四方のコドラート（正方形や長方形で区切った調査区のこと）の手法が川でも有効かどうか、検討した方がよい。河川でも一律に 10m 四方の面積が確保できるか疑問。（国立）
 - ▶ 河川は、人由来のごみが少ないため、今回は佐久島を考えている。（西原）
- 調査したあとは、どうするのか。調査だけでなく、ごみを拾って、汗を流してはどうか。漁民の気持ち、海の住民の気持ちが分かる。（鈴木）
 - ▶ ごみの処理については、西尾市のごみ減量推進課に聞いてみる。（国立）
- 海部会だけでなく、他の部会にも声をかけた方がいいと思う。（青木）



● その他

- 矢作ダムの堆積砂を使用した干潟・浅場造成事業があるが、その効果検証をしたい。素人ではできないので、データ出していただきたい。（天野）
 - ▶ 水産試験場、港湾事務所に話をすれば、教えてくれると思う。（石田）
- 干潟・浅場造成事業のアサリへの影響や、アサリによって、窒素、リンのバランスがどう保たれているのか、そういうことが、矢作湾のバランスだと思う。（天野）



ふりかえり

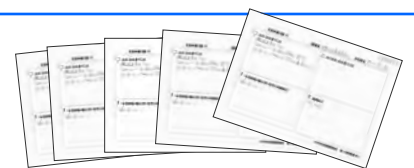
会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったと思うこと

議論に集中できた/メンバーからの正確な情報が提供されたこと

今後取り組んでいきたい活動など

海に出ること



今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第 10 回 WG を 7 月 20 日（土）に開催します

佐久島にて、ゴミ・流木調査のプレ調査を実施し、調査後に調査方法や調査票について話し合いを行う予定です。





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 10 回海部会 WG を開催しました！

7 月 20 日に第 10 回海部会 WG を開催し、佐久島白浜海岸での
ごみ・流木調査プレ調査を実施しました。

プレ調査では、ごみ・流木調査本調査に向けて、調査票や調査方法
の確認を行い、その後、改善事項について、話し合いました。



日時：H25 年 7 月 20 日(土) 10:30~14:30

場所：佐久島白浜海岸／佐久島クラインガルテン管理棟

参加者：13 名（事務局含む）

◆主な活動・会議内容

1：佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました



佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました。流木、人由来ごみ、生物影響ごみの 3 種類の調査について、メンバーで話し合いながら実施しました。



調査前の砂浜



10m 四方範囲を調査します



人由来のごみを集めます



生物由来ごみも調べました



調査後に清掃も行いました

※調査結果は裏面に記載しています。

2：佐久島クラインガルテンにて、ふりかえりを行いました



プレ調査後、調査票や調査方法についてのふりかえりを行いました。本調査に向けて、調査票や調査方法の改善点に関する意見が話し合われました。また、佐久島観光協会会長さんにお越しいただき、佐久島のごみの現状についてのお話をうかがいました。

【主な内容】

- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の3つに分類した方がいい。
- シート上では風に飛ばされるので、バケツ容器などに分別しながら行った方がいい。
- 生物影響ごみについては、細かい個数のカウントまでは不要ではないか。人由来ごみの調査とまとめて一緒に行ってはどうか。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤



TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆ プレ調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 3%、川発生のもの 3%、川発生のみ 94%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分で、内訳は以下ようになった。

	No.1	No.2	No.3
写真			
人由来ごみ (種類を調査)	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター 等 【漁業系ごみ】漁業系 【事業系ごみ】木材等 【その他】硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、ガラスや陶器片 等	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、苗木ポット、おもちゃ、ライター 等 【漁業系ごみ】漁業系 【その他】硬質プラスチック片、シート 等	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、生活雑貨、キャップ、袋類、苗木ポット 等 【漁業系ごみ】漁業系 【事業系ごみ】木材等 【その他】硬質プラスチック片、シート、スプレー缶、クッション 等
生物影響ごみ (種類・数を調査)	プラスチック破片(23)、ペットボトルのキャップ(13)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(10)、ガラス破片(6)、食品の包装・容器(6)、空き缶(3)、使い捨てライター(2)、ロープ・ひも状のゴミ(2)、発泡スチロール(1)、ペットボトル(1)、ピン類(1)、ガラス・陶器(1)、プラスチック容器(1)、車両部品(1) 等	プラスチック破片(35)、ペットボトルのキャップ(18)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(14)、ペットボトル(6)、プラスチック容器(6)、ロープ・ひも状のゴミ(4)、タバコの吸い殻・フィルター(3)、漁網(1) 等	プラスチック破片(80)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(20)、ペットボトルのキャップ(7)、ロープ・ひも状のゴミ(6)、木製品(3)、タバコの吸い殻・フィルター(1)、ペットボトル(1)、スプレー缶(1) 等

◆ 話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

① 調査方法について

- 調査時間は、夏は 2 時間くらいが適切だと思う。(松井)
- 調査人数は、今日の人数は 1ヶ所でやる人数としては多い。4、5 人が適切だと思う。(青木)
 - ▶ (一同了承)
- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の 3 つに分類した方がいい。(青木)
- 藤前干潟の調査では、分別するのに、バケツを持っていった。(溝口)
 - ▶ 容器の方が良い。風が吹くと飛ばされてしまう。量は換算すればいい。(青木)

② 調査範囲について

- 調査範囲 10m を何処にするのかという問題がある。川のゴミは、流れの淀みのところに溜まって均一でない。1m 真四角にして代表的なところで割り切ればいいのかと思う。(溝口)
 - ▶ 川の場合、10m を一つ取るよりは、1m や 2m を複数取った方がいいと思った。(鈴木)
 - ▶ 今日のような砂浜の場合、波際にずっと続くので、全体の一部分を取って、あとはメーター数をかけて換算すればいい。(後藤)

③ 生物影響調査について

- 生物影響ごみ調査の目的を何にするかが重要である。人由来ごみ調査を行えば、最終的にゴミの発生源を把握できる。それを目的にするのか、量まで把握するかという問題がある。(土屋)
- 人由来ごみと生物由来ごみの調査を合体させてはどうか。例えば、生活系、漁業系、事業系で、ある程度の量の把握で良いのではないかと感じる。(青木)



今後のスケジュール (予定)

次回 海部会第 11 回 WG を 8 月 5 日 (月) に開催します

東幡豆町トンボロ干潟、西浦人工干潟にて、生物調査、見学を行い、海の将来像について話し合う予定です。





発行日：平成 25 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 4 回海の地域部会、第 11 回海部会WGを開催しました！

8月5日に第4回海の地域部会、第11回海部会WGを開催しました。WGでは、東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行い、その後、調査結果について、ふりかえりを行いました。



日時：H25年8月5日(月) 10:00~14:45
活動場所：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟
会議場所：西尾市役所幡豆支所 2F 中会議室
参加者：17名(事務局含む)

◆主な活動・会議内容

1：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行いました。



東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて生き物調査を行い、干潟の生物、生息環境の違いを観察しました。



東幡豆町天然干潟



西浦地区人工干潟



25×25cmの範囲を調べます



生物名と個数を調べます



マテガイもたくさんいました！

※調査結果は裏面に記載しています。

2：西尾市役所幡豆支所にて、ふりかえりを行いました



調査後、見つかった生物の種類や干潟による生物、環境の違いについて、ふりかえりを行いました。また、ごみ・流木調査の本調査に向けて、調査場所や連絡体制についての話し合いを行いました。

【主な内容】

- 調査の結果、東幡豆町天然干潟で9種、西浦地区人工干潟で5種の生物が見つかった。
- ごみ・流木調査の本調査は、出水後、事務局と西尾市でごみ・流木の状況を把握し、メーリングリストにて、調査場所・時間を周知することとなった。
- 人工干潟は、砂の粒径が均一で生息する生物も限られるため、上流のダムを砂を持ってきて、人工干潟の改良実験を行ってはどうか、という提案があった。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



3：第4回海の地域部会にて、役員改選を行いました



第4回海の地域部会にて、座長に 大阪大学大学院 青木伸一教授、副座長に 名城大学大学院 鈴木輝明特任教授 が再選されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆干潟生き物調査の結果

●東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟 25×25cm 当たりの坪刈り（深さ 20cm）の調査結果は、東幡豆町天然干潟で 9 種、西浦地区人工干潟で 5 種の生物が見つかった。また、東幡豆町天然干潟のアサリの平均殻長は、31mm であった。

		写真	種類	NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	合計 (個/m ²)
東幡豆町 天然干潟		アサリ	22	8	9	6	96~352	
		シオフキガイ	1	-	1	2	16~32	
		アラムシロガイ	4	1	10	-	16~160	
		ウミナ	1	-	-	-	16	
		マテガイ	1	-	-	2	16~32	
		シマハマツボ	-	-	2	1	16~32	
		マメコブシガニ	1	-	-	-	16	
		ヤドカリ	1	1	3	-	16~48	
		ゴカイ類	1	-	-	-	16	
		アサリ稚貝	-	-	-	1	16	
		シオフキガイ稚貝	7	-	-	5	80~112	
								9種類
西浦地区 人工干潟		バカガイ	2	1	7	2	16~112	
		カガミガイ	-	3	3	-	48	
		マテガイ	-	1	-	-	16	
		シズクガイ	4	-	-	-	64	
		カンザシゴカイ	1	-	-	-	16	
		バカガイ稚貝	1	-	-	-	16	
		ガザミ脱皮殻	-	-	1	-	16	
								5種類

◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

① 干潟生き物調査のふりかえり

- 西浦地区の人工干潟については、4月の調査で 47 種確認できた。現在は、造成中ということもあり、かなり種類が確認でき、今日はそのうちの 5 種が確認できた。(蒲原)
- 天然干潟と人工干潟の違いとして、天然干潟には巻貝がたくさんいた。人工干潟は、粒径も均一で急勾配のため砂が溜まりにくい、天然干潟は、泥や有機物がたくさん溜まっていた。(鈴木)
- 流域圏懇談会で、上流部のレキや砂などを人工干潟に持ってきてはどうか。(高橋)
- 大規模でなくてもダンプ 1 杯分の砂で実験的にやってみてはどうか。(青木)
 - ▶ 実際にレキを入れた成功事例がある。国や県の補助事業で連携してできると思う。(鈴木)

② ごみ・流木調査本調査に向けて

- 調査場所として、古川の河口はよく溜まり、船も通るので良いところではないか。また、矢作川の河口地点もいいと思うが、すぐ流れていってしまう。(高橋)
 - ▶ 船が通る場所は、漁師さんがすぐ片づけてしまう。調査しやすい場所が良いと思う。(河原)
- 出水後の西尾市のパトロールの際に、調査場所に丁度いい場所を見てもらってはどうか。(鈴木)
 - ▶ 事務所も出張所があるので、出水後は巡視を行い、調査場所を選定する。調査場所と時間はメーリングリストでメンバーに周知する。(西原)



ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったと思うこと

2ヶ所の干潟の生物多様性の差が実感できた。/自然と人工の干潟の差がよく分かった。

今後取り組んでいきたい活動など

人工干潟の改良試験の idea が出たが、実現することが流域懇談会の役割だと考える。/山砂の人工干潟使用。

よくなかったと思うこと

いつもながら参加者数が・・・？

今後のスケジュール (予定)

次回 海部会第 12 回 WG を 9 月 9 日 (月) に開催します

船で渥美半島先端付近まで出かけ、その途中の貧酸素区域や深掘跡など 3ヶ所で水質調査を行います。

